

「膿出し」は「生み出し」

まぐまぐ殿堂入り・日刊メールマガジン
「今日のフォーカスチェンジ」第2185号
(2009年10月22日発行)より

今年に入って、しばしば、話題になることが、「今年は、大きなエネルギーが、動いているねえ」ということです。

私は、何か見るとかわかるとか、特別なちからは持ち合わせていませんが、それでも、今年は、自分自身のまわりで、実際に、さまざまな変化が起きているのを感じます。

怖れや、苦しさから目をそらしてきたことに、向き合わずにはいられない状況がやってきたり、ありたいかたちに向かって、とてつもないエネルギーが湧いてきたり…。

どちらも、あまりにもおおきなエネルギーなので、うかうかしていると、吹っ飛ばされそうです。

とりわけ、前者は、自分自身のありようを、真正面から問い直される最大のチャンスです。

それは、かたちとしては、マイナスに見える事柄としてあらわれてくるのですが、実のところは、より根源的な、

自分自身の生きかたを変えていくエネルギーをもっているものです。

私の信念のひとつに、「自分にとっての進むべき方向を進んでいるときは、シンクロが起きてくる」というものがあります。まるで道標のように、「あ、ここにもまたあった」というふうに、シンクロしてしまうのです。(あくまでも私にとっての信念で、すべてのひとにとっての真実ではありません)

それが、昨日も起きました。友人がたずねてきてくれて、まさに、そんなエネルギー変化の話をしていたとき。その、自分自身のなかの負の状況について、ふっと、こんなことばが浮かんだのです。

『「膿出し」は、『生み出し』だよね』

それを言った瞬間に、友人の表情が変わりました。友人は、私と会う前に、別のひとと会って、話をしてきたのですが、そのひとが、私のそれと、まったく同じことばを言っていたそうなのです。(ちなみに、そのひとは、まったく知らないひとです)

こんなことが、ひんぱんに起きます。そして、あらためて、それが、いまの

私が受け止めなくてはならないメッセージなのだと感じたのです。

「膿出し」は、「生み出し」

「膿出し」とは、まさに、自分自身がかかえてきた、いわば影の部分、を、てばなしていくということ。それは、ある意味では、私を守るためにずっとよりそってきてくれたのですが、すでに役割を終えて、このまともにいることは、お互いにとってマイナスになってしまうもの。

だから、ここで、終わりにしなければならぬのです。感謝して、さようならを言わなければならないのです。

そして、それは、同時に、「生み出し」でもあります。あらたな自分と出会う、はじまりなのです。

その覚悟をするチャンスが、実は、昨日やってきました。それが誕生日の前日だなんて、これもまた、シンクロというべきことなのでしょう。

この私自身の気づきをとおして、もしもよかったら、受け取ってください。ひとは、自分を終わらせ、また生み出していく存在なのだということ。

そのプロセスのなかには、ときに、自分を否定したくなるようなことが起きるかもしれません。

あるいは、ひとが、自分を、痛烈に批判してくれるかもしれません。

そのどちらもが、チャンスなのだということ。その痛みから逃げずに、終わらせていくということ。膿出し、生み出していくということ。

今日のメッセージがぴんときたひとは、シンクロが起きているのかもしれない。ぴんとこなかったひとは、別のプロセスを必要としているのかもしれない。でもどうぞ、どんなときも、思い出してくださいね。

「膿出し」は、「生み出し」

ピンチだけのピンチはありません。それは、いつも、チャンス…次のステップとともにあるのです。

●日刊メールマガジン「今日のフォーカスチェンジ」(かめおかゆみこ編集・発行)は、2003年11月1日創刊。2009年4月、2000号達成。3秒で読める携帯版もあり。無料講読は「かめわざ快心塾」から♪

<http://kamewaza.com/>